# 第4学年 社会科学習指導案

ろ組男子17名女子17名計34名指導者上江洲洋志

- 1 小単元 わたしたちのくらしとごみ
- 2 小単元について

# (1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに鹿児島市の様子について、地域の人々の生産や販売に関する仕事が、他の地域とかかわりをもちながら、消費者の願いにこたえるための様々な工夫や努力によって自分たちの生活を支えていることをとらえてきている。また、日常の生活に必要な飲料水が、水道事業に従事する人々の工夫や努力によって安定的に確保、供給されており、自分たちの健康な生活を支えていることをとらえてきている。このような学習をしてきている子どもたちは、他にも自分たちの生活を支える事業が行われているのではないかという関心をもち、追究していきたいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、ごみや資源物の処理について追究する活動を通して、それらの対策や事業が、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上のために、計画的、且つ、地域の人々や企業の協力によって行われていることをとらえさせようとするものである。さらに、見学や、写真や図、グラフといった資料を活用しながら、健康で衛生的な生活を送りたいという市民の思いとごみ処理の様子とを関連付けて考える力や、よりよいごみ処理の在り方について判断する力を高めていこうとするものである。

このような学習は、災害や事故から人々の安全を守るための関係諸機関の働きやそれに従事する 人々の工夫や努力と地域住民との連携について追究する学習へと発展していくものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

鹿児島市では、北部清掃工場や横井埋立処分場、リサイクルプラザといった施設を中心に、民間企業とも連携してごみや資源物の処理を行っており、その処理には、平成25年度は約49億円の費用を投じている。また、その分別方法を、大きく燃やせるごみ、もやせないゴミ、粗大ゴミ、資源ごみの4類型15品目とし、ゴミの発生抑制、再生資源の利用促進に努めている。これらの取組や市民意識の高まりから、市民一人当たりのごみ処理経費は減少傾向にあるが、資源化率については上下を繰り返している。市民の生活を快適かつ衛生的に保つととともに、資源を持続可能な形で利用し、自然環境を保護、維持していくために、鹿児島市では「鹿児島市一般廃棄物処理基本計画」を定めており、その中では、さらなるごみの減量化や再資源化のための数値目標を設定している。

そこで、ここでは、ごみの発生抑制やごみ処理の方法、資源物の利活用の様子と、それらに従事する人々の工夫や努力を取り上げ、写真や図、グラフといった資料を活用しながら、それらの様子や問題点を調べる活動を設定していく。その際、子どもの意識が、一市民としてゴミの減量化、自然環境や資源の保護と持続可能な開発に向かうようにするために、よりよい鹿児島市のごみ処理の在り方について価値判断したことを話し合ったりする活動を位置付けていく。

そのために、まず、家庭や学校から出されるごみについて話し合わせ、日頃生活していく上で様々な種類のごみが出ていることをとらえさせる。そして、鹿児島市がごみの減量化や再資源化をより進めようとしていることをとらえ、その意義を話し合う活動から、問題意識をもたせるようにする。次に、一人一人の予想や学習計画を基に、見学や調査などを通して追究させていく。その際、ごみが清掃工場や埋立地で処理されていることをとらえさせるとともに、その処理は、市民や企業の協力を得ながら、従事する人々の様々な工夫や努力によって支えられていること、多くの費用が必要でありそれが市民の税金で賄われていることについてとらえられるようにしていく。そして、追究の結果分かったことを基にこれからのごみや資源物の処理の在り方について価値判断させることで、よりよい対策や事業、自然環境や資源の保護、活用に対する自分の考えをもたせるようにしていく。

このような学習を通して.子どもたちは自分たちのくらしとごみや資源物の処理の対策や事業と の関係が分かる楽しさを味わいながら、地域社会の一員としての自覚を高めていくことになる。

#### (3) 子どもの実態(調査人数名,質問紙法,重複回答,主な質問事項のみ記述)

#### ごみ・ 資源物の種類

紙類(30), 生ごみ(20) ,ペットボトル(18),プラス チック(17),ビニル(12), びん類(7),容器・包装類(5) "み・資源物の分別

- 燃やせる・燃やせない・資源物(3)
- 燃やせる・燃やせない(資源物混在)(10)
- 燃やせる(資源物混在)・燃やせない(3)
- ごみ・資源物混在(7)
- ごみ・資源物の行方
- 収集車→清掃工場等,種類別の行き先
- 収集車→清掃工場等のうちいずれか
- 収集車→リサイクル工場
- ごみ減量の意義について
- 資源(11),快適な生活(9), 土地不足(5)
- み減量, ぶみ処理の在り方
- リサイクル推進 (13), エコバッグ等の活用 (5)
- 本単元にかかわる資料活用力について
  - ①地図…記号の読み取り 正答 (32)
  - 方位による位置関係 正答(30) ②グラフ…変化(15),最大値(7),最小値(5)
- ③写真…行動の違い(27),行動のねらい(25)
- ③追究方法…見学(30),関係者取材(20), 教科書(15)
- 期待する活用の仕方

-プ新聞作り(18).各自ノートまとめ(16). 個人新聞(10),パンフレット(3)

この学級の子どもたちのごみの処理についての見方 や考え方は次の通りである。子どもたちは、これまで の生活経験から、ごみや資源物が多様に存在している ことに気付いている。しかし、その分別について正し く理解している子どもは少ない。中でも、資源物につ いては、位置付けが不明確であったり、他のごみとの 区別を混同したりしている。これは、種類ごとに分別 して廃棄するという生活経験はあるものの、廃棄した ものを自分でごみ捨て場に搬出したり、分別する理由 を考えたりするという経験が少ないためであると考え られる。また、出されたごみや資源物の行方や処理の 方法について、清掃工場等の存在はとらえているもの の、その働きを具体的にとらえている子どもは少な い。さらに、ごみ減量の必要性については感じている ものの、その意義や具体的な方法について考えを明確 にもつことができている子どもは少ない。

写真の読み取りに関しては、かまぼこ工場の作業員

の手の洗浄と、粘着テープによる服の埃の除去という行動の違いに気付くだけでなく、それぞれの 行動の共通した理由についてあげる子どもが多かった。これは、菓子工場の見学の際に、食品の安 全や衛生に気を付けていることを調べていることが生かされていると言える。グラフの読取につい ては、学習経験の不足から、十分な読取ができている子どもが少ない。また、追究の方法について は、見学や取材を挙げる子どもが多かった。

# (4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のようなことに留意したい。子どもの意識が、一 市民としてゴミの減量化、自然環境や資源の保護と持続可能な開発に向かうようにするために、よ りよい鹿児島市のごみ処理の在り方について繰り返し価値判断したり,判断した理由を話し合った **りする活動を位置付ける。**また、判断する意義や喜びを感じさせていくために、最終的な価値判断 を基に、今後の鹿児島市のごみ処理の在り方について提案書にまとめ、送付するというプロジェク トを位置付けていく。このような学習を、以下のような手順で実現していく。

ア まず、自分のくらしとごみのかかわりに気付かせるために、家庭や学校で、どのようなものが 排出されているか話し合わせる。また、鹿児島市のごみ処理の様子に対する問題意識をもたせ るために、市のごみ処理計画を提示することで、ごみの減量や資源化の促進の必要性を感じさ せ、「今後のごみ処理の在り方」に関する論題を設定する。その後、追究への見通しをもたせる ために単元当初の価値判断とその理由を話し合わせる活動を設定し、判断の根拠となる事実の 必要性に気付かせ、追究の計画を立てさせていく。

イ 追究にあたっては、「鹿児島市の取組」「市民の取組」「企業の取組」という、ごみ処理の問題 にかかわる3つの立場を柱として追究させていく。ごみや資源物処理に対する事業が、鹿児島 市において計画的、協力的に進められていることを具体的にとらえさせるために、ごみ収集所 や清掃工場,最終処分場などの見学や,そこで働く人々への取材をさせる。そして,見学や取 材したことを基に、ごみや資源物処理にかかわる施設や働く人々の工夫や努力と、健康で衛生 的な生活を送りたいという市民の願いや資源、環境とを関連付けてとらえさせていく。そのう えで、より効果的な処理の在り方について、先進的な取り組みをしている他地域や企業と比較

# させながら話し合わせ、判断の基準となる考え方である価値的知識をとらえさせていきたい。

ウ 地域の一員としての自覚を高めさせるようにするために、本単元で培ったごみ処理についての 見方や考え方を生かして再度価値判断させ、その理由を吟味し合う場を設定する。そして、単 元を通して分かったことや、友だちと考えを交流し合ったことを基に自分の考えを再構成させ、 提案書にまとめ、市役所に送付する活動を設定する。

# 3 目 標

- (1) 自分たちの出しているごみや資源物に関心をもち、その処理の仕方や働く人々について意欲的に調べるとともに、地域社会の一員として主体的にごみの処理に関する問題についての考えをもち、かかわろうとすることができる。
- (2) 市のごみや資源物の計画的・協力的な処理と市民の健康で衛生的な生活の維持・向上への願いとを関連付け、処理の仕組みや働く人々の願い、環境への影響を踏まえ、よりよいゴミ処理の在り方について、判断したり考えたりしたことを表現することができる。
- (3) 自分の調べたことや考えたことを明確にしていくために、ごみや資源物の処理の計画的な事業について、見学や聞き取りなどを通して具体的に調べ、まとめることができる。
- (4) 地域社会では、人々の健康で衛生的な生活を支えるために、ごみや資源物の処理を計画的に行っていることや、地域の人々や企業の協力が必要であることを理解することができる。

# 4 指導計画(全18時間)

学習過程	主な学習活動	子どもの思考の深まり	教師の具体的な働きかけ
	1 家庭や学校から毎日出されるごみや資源物の種類や量について話し合う。 2 資料の数値を比較して気付いたことや	家でも学校でもたくさんの種 類や量のごみが出されているな。	<ul><li>☞ 写真(家庭や教室から出たごみ)</li><li>○ 日常の生活とごみとの関係をとらえさせるために、学校や家庭でどのような</li></ul>
つか	その意義について考えたことを基に論題 を設定するとともに,単元当初の価値判	ごみの処理は、主に鹿児島市が やってくれているんだな。	ごみが出されているかを話し合う。
t	断とその理由を話し合い,追究の方向性を話し合う。(1,2が本時) ごみをもっとへらしたり、リサイクルを進めた	鹿児島市がごみを減らしたい と思っているのはなぜかな。	としていることをとらえさせるために、 年次ごとに目標値を比較させ、気付きを 話し合わせる。
立て	りしていくために、だれが、どんなことに取り組 んでいくべきなのだろうか。	<ul><li>ごみを減らすために、取組みを 考えていかなければならないの は、自分も含めてどんな人かな。</li></ul>	○ 追究への見通しをもたせるために、論 題に対する初めの価値判断を行い、その
る	3 当初の価値判断とその理由を基に,調べる内容や方法を話し合い,追究の計画を立てる。	そもそもごみはどこでどうや って処理されているのだろうか。	理由を話し合う活動を基にして、追究の計画を立てさせる。 寧 写真(近隣のごみ集積所,収集車)
2	調べる内容:追究の柱  ごみの種類別の処理の仕方	清掃工場などでは、効率よく処 理するためにいろいろな設備が 整えられているんだな。	○ 最終的なごみの処理についての追究 意欲をもたせるために,ごみ集積所や収 集車で働く人々の観察,取材から清掃工
	<ul><li>○ ごみ減量化のための企業の取組み</li><li>○ ごみ減量化のための市民の取組み</li><li>4 ごみや資源物が収集される様子を調</li></ul>	● (人々は、様々な工夫で努力をしている) んだな。	場の存在を明らかにし、工場見学の視点をもたせる。  追究の柱に対する自分なりの考えを
-tt	べ,清掃工場等の見学の計画を立てる。 5 北部清掃工場を見学する。	それぞれの地域できまりに基 づいて収集,処理することで気持	明確にさせるために,施設・設備や働く 人々の様子に着目させて見学や取材を
調	6 見学をして分かった事実を整理してグループ新聞にまとめる。 7 分かったことを基に、話し合う。	ちよい生活ができるんだな。 	行わせ,グループでまとめさせる。 ⑤ 写真(ごみの出し方,リサイクル店の様子)地図(清掃工場等の分布)
~	(1) ごみ出しや収集のきまり (市民の取組み) (市成取組み) (企業の取組み) (企業の取組み) ・ 清掃工場等の施設 (・資源物回収	資原化を進か   後まで大事に	○ 住民の健康で衛生的な生活が維持されていることをとらえさせるために、市民、市,企業それぞれが取り組んでいることに
る	・収集日の厳守  ・ 収集日の厳守  ・ 環境等への配慮  ・ 資源物買取り  ・ 正夫や努力  ・ 企業等の協力	地域や地球全体の将来のことも考える必要があるんだな。	着目させ、その意義を話し合わせる。 ⑥ 実物(有料ごみ袋,簡易包装された商品)、写真(コンビニ店内のごみ箱)
	現在と将来の市民の気持ちよい生活のために (2) ごみや資源物のより効果的な処理の	自分たちが取り組んでいない ことに取り組んでいる人や町が	<ul><li>○ 市の取組みの方法の一つとして,ごみ の有料化があることをとらえさせるた</li></ul>
<u>(13)</u>	在り方について話し合う。	くいる(ある)んだな。なぜ,ちがくいがあるのかな。 といがあるのかな。 これまでの学習を踏まえると,ど	めに、他自治体の回収方法と比較させ、 その利点を話し合う。また、市民のモラ ル向上の必要性に気付かせるために、コ
10	モラル向上 分類の検討 簡易包装 ごみの減量→環境や資源の保護,有効活用	んなごみ処理の仕方が望ましいかな	ンビニ店でごみ箱を店内に移動している店舗が増えた理由を話し合わせる。さらに,企業にもごみ抑制の責任があるこ
7	8 学習のまとめをする。	市民がよ	とをとらえさせるために,通常の包装と 比較させ,その利点を話し合わせる。
まとめる	⟨を得ながら、計画的に処理されてお⟩  り、資源の有効活用や環境保護につな⟩	きだ。	<ul><li>◎ これまでに活用した資料</li><li>○ 社会的な価値判断をさせるために、主張と根拠の整合性や提案の現実性等を吟味さ</li></ul>
- - - - - - - - - - - - - -	がっている。 9 ごみ減量化のために取り組んでいくべきことについて価値判断したことを話し合う。	難しそうだから,少し考えを修正 してみようよう。	せる。 ○ ごみや資源物の処理についての学びを生 かすために、話し合ったことを基に、今後の
3	10 学習したことを踏まえて、よりよいごみ処理の在り方に関する提案書を書く。	ごみのこと、将来のこと、様々な問題点について学んだことを、 生活に生かしていけそうだな。	ごみ処理の在り方について各自で提案書を 書き、市役所に送付する。

# 5 本 時

# (1) 目標

鹿児島市のごみの量と減量化計画における目標値を比較したり,ごみ減量の意義を話し合ったりする活動を通して,「ごみ減量化のために誰が,どんなことに取り組んでいくべきか」という論題を設定し、判断するとともに、判断の妥当性を検証しようとする意欲を高め、追究への見通しをもつことができる。

#### (2) 本時の展開にあたって

本時では、課題の明確化を目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、**鹿児島市のごみ排出量及び資源化率の現状と減量化計画における6年後の数値目標とを比較させ、「7年後の数値は何を表しているか。」と問いかける**ことで鹿児島市がより一層のゴミ減量、資源化率向上を目指していることをとらえさせる。そして、その意義を問う発問や実現の可否を問う発問を行うことで、ごみ処理に関する問題を自分事としてとらえ、論題を設定できるようにしていく。

# (3) 実際

